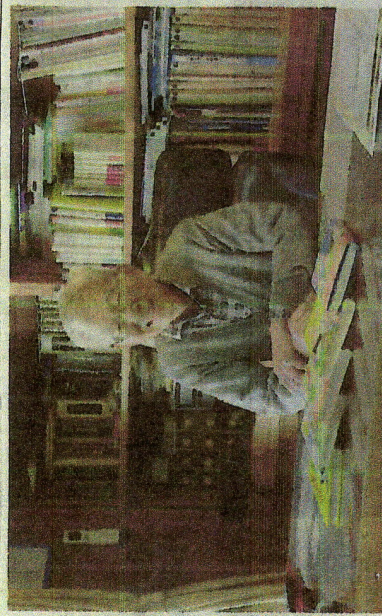


☆あたらしい本のしょうかい☆

「秘密基地のつくいかた教えます」 那須正幹・作

カストムシがいっぱい集めるクヌギ林。もし、ここに泊まれたら・・・？作者は「スッコケ三人組」シリーズを書いた那須正幹（なす まさもと）さん！新聞でも紹介されていたので少しご紹介。（福島県すいせん図書）



著者・那須正幹さん
1949年、広島県生まれ。3歳のときに母子移住。東京府立大蔵大の経済学部の「スッコケ三人組」シリーズ（ポプラ社）をはじめ、1歳で読む「広島の戦場」（新日本図書）、所収の子どものたち（PHEP事務所）など著書多数。

朝日小学生新聞 2020年9月24日(木)より。



「園を切って走りたい！夢をかなえるバリアフリー-自転車」

高橋うらら・著

東京・足立区で体の不自由な方も乗れるオーダーメイド自転車を作り続ける職人として、「ナニコレ珍百景」でも紹介された堀田健一（ほった けんいち）さんのことを書いたノンフィクション！（課題図書）



「おぼけずかんシリーズ」 斉藤洋・作

家にも、学校にも、オリンピックにも・・・！？おぼけはあなたの近くにいるかもしれません。でも、これをよめばだいじょうぶ！大人気のシリーズですが、じつは作者の「斉藤洋（さいとうひろし）さん」いろいろな作品を書いているんです。学校にある本をしょうかいするので、おぼけずかんが借りられていても、この本をよめばだいじょうぶ！

『ルドルフとイッパイアッテナ』

『ペンギンたんけんたい シリーズ（どうわがいっぱい）』

『でんしゃにのろう シリーズ』

『どんどんももん』

『どうぶつえんのいっしゅうかん』

『ぼうれんしマウス』

『ジーク 一月のしずく日のしずく』

『耳の聞こえないメジャーリーグー ウィリアム・ホイ（斉藤洋訳）』



「赤い蠟燭と人魚」 小川未明・作

6年生の教科書で紹介されている本です。絵本ですが、本を開くと真っ黒なページに文字が白く浮かび上がり、なんだか少し不気味な印象を持つ作品です。

人魚は、南のほうの海にばかり住んでいるのではありません。北の海にも住んでいたのであります。



物語は、「優しい人間のもとで幸せに暮らしてほしい」と願う人魚の母が子どもを老夫婦に託すところからはじまります。内気でロウソクばかり作る人魚の娘のところへ、ある者がやってきて・・・。人間の心の弱さやみにくさを描いた作品の続きはぜひ本を手にとって読んでみてください。

「トラフル旅行社 砂漠のフルーツ狩りツアー」

廣嶋玲子・作

「廣嶋玲子」という名前を見てピン！ときた人は、やり手です。

言わずと知れた「読天堂シリーズ」の作者さんが、この度最新作シリーズを発表！日和田小図書館にもさっそく入ってききました。

冬の福島県すいせん図書にもえらばれている本です。この機会にぜひ読んでみてくださいね！

